異常兒の身體的特徴に就いて（つゞき）

高師教授　醫學士　文學士　寺澤嚴男

次に身體的徴候の主なるものに就て簡單に述べる事と致しまする。

（一）身長、體重。低能兒の平均身長及び平均體重は、通常兒のそれよりも小なるが常であります。無論之は多數の者の平均に就て云ふのでありまするから、一人々々に就て見れば、例外が澤山にあります。されば此事は低能兒等を鑑定する際に實際餘り役立ちませぬ。然し兎に角平均身長及び平均體重に於て、低能兒が劣つて居るのが常である理由は、一つは低能兒は身體一般の發達力に於て、先天的に劣つて居るのが常であるにも依る事勿論でありまするが、又一つには彼等は一般に病に罹り易い體質を有し、又他の兒童と同樣に運動遊戯等に加はる機會が少きにも依るのでありまする。低能の女子も矢張身長は小であるのが常でありまするが、年齡長するに從ひ多くは脂肪肥りとなり、從つて身體が不格好に見ゆる者が少くありませぬ。

單に身長が普通の平均よりも高いとか低いとか云ふ程度のものでなく、身長の畸形とも云つてよいもの、卽ち身長の過小なるもの所謂侏儒症、及び身長の過大なるもの所謂巨身症は、低能に伴ふ事が多いのであります。

（二）頭部。次には身體の各部分々々に就て考へて見ませう。先づ身體の中でも、頭部は精神の働きが宿る場所でありまするから、其大きさや形ちが、其個人の精神的發達の鑑識を資ける目じるしの中の最も重要なるものである事は申す迄もありませぬ。頭部は更に之を顏面部と頭蓋部とに分ける事が出來まする。顏面部には其顏面筋肉の働きに依つて、時々刻々變化されつゝ其顏面表部に現されつゝある表情有るが故に、其內部の精神活動が非常に細かに鋭く示唆せられるのが常でありまするから、其表情の形式や多少や鋭鈍などに依つて、其人の知情意の發達

狀況をよく推知する事が出來まする。されば常識的の觀察に依つて其賢愚等を突如として識別する場合には、普通の人は主として顏面の表情に賴つて居りまする。然し表情は時を逐ふて千變萬化するものでありまするから、判斷に資すべき精確な表情の標準を規定する事が困難でありまする。之に反して比較的變化性の少い骨骼の大小形狀に依つて、其個人の精神の發達狀態を推定するには、精神の座である腦髓を包藏せる頭蓋骨に依つて爲されなければなりませぬ。腦髓の發育が大であれば、唯僅かに之を浸して居る少し許りの腦脊髓液と薄い三枚の腦膜とを隔てたのみで、密にこれを包んで居る頭蓋骨の發達も亦之れに伴つて大でなければなりませぬ。卽ち其內部に包まれて居る腦髓の內壓に依つて頭蓋骨の大小も或程度迄は決定されて行きます。且つ腦髓の特殊の部分の發育が大なれば、頭蓋骨のそれに相當する部分も亦大きく發達する筈でありまする。然し御承知の如く腦髓は極めて柔かなるものであり、之に反して頭蓋骨はたとへ發育中でも比較的堅固なものでありまするから、特に腦髓の一部分の發達が著しくても、狹い堅い箱のやうな中の事でありまするから、其部分のみの腦髓が特に突き出ると云ふやうな事はなく、其周圍の部分の腦髓にも壓していつて、餘程其高さが平均される筈でありまする。從つて腦髓の或部分の發達が直ちに頭蓋骨の形狀を其通りに變化せしめて行くと云ふやうな事はありませぬ。のみならず腦髓の各部分々々の機能は段々明かになつて來て居り、身體の各部分の筋肉運動或は皮膚感覺等を司る場所、視覺聽覺言語運動等を司る場所などが大分分つて來ては居りまするが、骨相學者などが云ふやうに、例へば判斷、想像、觀察、注意等の中樞、或は性慾、自我、愛情など〻云ふが如き種々の中樞があるか否か、これは今日の所明かに知られて居ない許りでなく、是等の働きは腦髓の色々の部分の機能の協同作用から成り立つものであつて、決して腦髓の或る一局部の働きに依るものではないと云ふ事が確かなやうに思はれまする。從つて是等細かな諸中樞の存在は否定せなければなりませぬ。されば普通の骨相學者の云ふ所は、勿論決して當てにはならず、笑ふ可き事だとは思ひまするが、然しそれにしても大體に於て頭蓋骨が其中に包まれて居る腦髓の發達を推定せしむる一つの標識となる事は爭はれませ

ぬ。猶又他面から考へて見まするとゞ骨組織には其組織の發達を左右する條件を、其自身の中にも持つて居ります。又外壓の爲めにも左右されまする。從つて何かの事情の爲めに頭蓋骨其物の發達が阻止され或は畸形にされて、其儘固つてしまへば、逆に之が爲めに其内にあつて成長しなければならぬ腦髓の發達が障碍される事も容易に考へ得られる事でありまする。

されば頭蓋骨の大小形狀は、かう云ふ條件に左右されるが爲めに、母の胎内にある時の胎兒の腦髓の發育、及び出産の際に産道に於て受くる强き外壓、及び出産後嬰兒時代幼兒時代等に於ける腦髓其他諸器管の發達及び外部の機械的影響等に依つて決定されまする。右の中に述べましたやうに出産の際に於ける事情も可成り重要な關係があるのでありまする。出産の時に難産であつて産兒が狹い産道を出る事がむづかしく、大きな頭部が其間に挾つて、可成り長い間壓しつけられて居たり、又鉗子などで頭をはさんで人工的に引き出されたりする時などには、少からぬ機械的壓迫を受けまする。さうすると頭蓋骨に受けた此時の影響の幾分は長い間遺つて、其頭部の形狀の上に色々の畸形を留める事がないとは云へませぬ。さうして此難産の際に産兒の頭部に充血した事が、後年に於ける其兒の精神障碍を可成り惹き起す原因となるものであると云はれて居りまする。それで小兒科の醫者殊に精神病學者などが、低能兒や精神病者などを診察する時に、其出産狀況をも普通聞き糺す事になつて居りまする。

さて頭部の大きさは大體の所は觀たゞけでも分ります。然し其大きさとか縱と横との關係とかを稍〻精密に知らうとするには卷尺を用ゐ、或は頭蓋計を用ゐまする。

一般に頭蓋骨の大きい者は、然らざる者に比して智能の發達がよろしい。低能兒等には頭の小さいものが多い事は、今迄の多くの統計上明かになつて居りまする。さればとて頭の大きさと智能の發達とは嚴密に一致するものではなく、頭の餘りに小さ過ぎる者は低能又は白痴其他の精神異常者ときまつて居りまするが、頭の大きからざる者にも智能の大變秀れた者もあり、又頭の大きい者にも低能白痴の者がありまする。且つ頭の餘りに大き過ぎる者も亦矢張り大抵は低能でありまする。之は智能の優劣は、腦

髓の大きさのみに依るのではなく、又實に其腦髓の質の良否に依ると云ふ明白な理由に基づくのでありまする。のみならず頭蓋骨が大變大きくとも、腦髓が大きいとは限りませぬ。何となれば頭蓋骨が大きいのは、其中に含まれて居る腦脊髓液の分量が過大なるに依る事もあり、又腦髓の實質内に大きな空洞が存して居るやうな事も稀にはありまする。頭蓋内に液體が澤山たまつて居ると云ふ事は、餘り稀な例ではなく、腦水腫と云つて時折子供などに見受けまする。之には色々の原因がありまするが、親に黴毒があつて其遺傳黴毒に依つて、さう云ふ子供が出來る場合が最も多いのでありまする。腦水腫の者は多少精神の發達を阻害されて低能兒等になりまするが、然し中にはさうでなく、時としては腦水腫の頭を持つて居つて優れた者もないではありませぬ。賴山陽の如きも腦水腫であつたと云はれて居りまする。

次に頭蓋骨の形成の上より申しますれば、其形のいびつな者には矢張り精神異常者が多い。其形にも種々ありまして千差萬別と云つてもよろしい位でありまするが塔狀頭と云つて上の方へ稍〻高く丁度低い喇嘛塔の形に近いものもあり、尖頭と云つて頭の先きの方が尖つて居るものもあり、鞍狀頭と云つて中央が稍低く馬の鞍に類するものとあり、龍骨頭と云つて頭蓋骨が左右兩側から押されて頂部が船底の龍骨を見るが如くなつて居るのもありまする。又左右が不相稱である頭蓋も御座います。無論頭蓋骨がいびつであるから直ぐ異常兒とは考へられませぬが、かゝる小供の頭を撫でた場合には、疑つて見る値打は充分に御座います。

大きな頭は大顱、小さな頭は小顱と名けて居りまする。身長も常人に比すれば遙かに小さいが、身體に比して頭部殊に頭蓋部の馬鹿に大きい者は、福助などゝ云つて繪などにも昔からよく書かれて居り、實際にも往々見受けまする。之に反して著しい小顱は割合に稀でありまする。然し無い事はありませぬ。先年私は靖國神社の見世物で、著しい小顱の人間と大顱の人間とを一所に出して、色々の所作を演じさせて見物人を喜ばせて居るのを見ました。其小顱は白痴に近い者でありましたが、之に反して大顱の者は流石それよりは遙に賢く、此小顱の者を馬鹿にしながら小利口さうに色々の藝事を居りましたが、矢張之も普通の人よりは大分劣つたものでありました。